

受賞を喜ぶ愛菜ちゃん(中央)ら
園児と吉川園長(海老名市で)



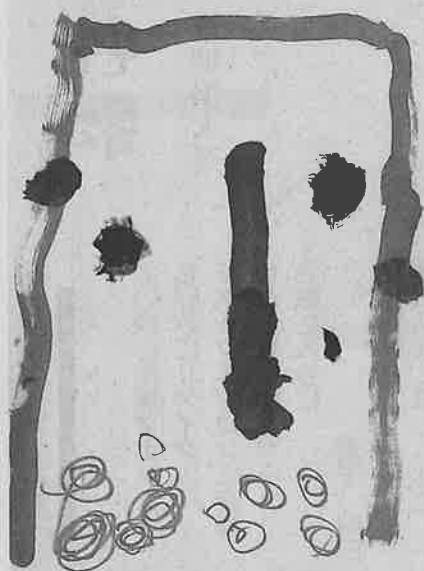
世界児童画展 特別賞に2人

鈴木愛菜ちゃん、草野旭飛君

ひなた保育園 団体賞

第55回世界児童画展(美育文化協会主催、読売新聞社など後援)の入賞者が決まり、県内からは2人が特別賞に輝いた。海老名市の「ひなた保育園」の鈴木愛菜ちゃん(4)は文部科学大臣賞に選ばれ、同園は都道府県団体賞に。また、横浜市中区のアート教室「キッズアート・アップ」に通う小学1年生、草野旭飛君(7)は美育文化協会賞を受賞した。

(村尾潤)



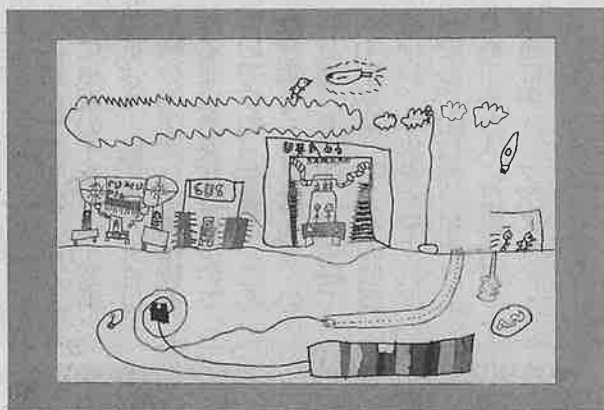
「ゾウさんリンゴ食べるかな」
文部科学大臣賞 鈴木愛菜ちゃん

タブレット端末でお絵かきを楽しむ草野旭飛君(横浜市で)



「洗車ステーション」

美育文化協会賞 草野旭飛君



鈴木愛菜ちゃんの作品「ゾウさんリンゴ食べるかな」は、大判の画用紙いっぱい、ゾウの大きな体を表現。園が用意した88色の絵の具から選んだ鮮やかな赤紫色で、力強く輪郭を描いた。愛菜ちゃんは「リンゴが好き。ゾウさんにも食べさせたい」とほえんだ。受賞を喜ぶ家族には「まだ動物園に行きたい」とお願しているという。

ひなた保育園の吉川孝道園長(68)は「斬新な色遣いや、いびつな線。3歳頃の子どもが描く絵には、型に

はまらない魅力がありま

にあるカラフルな四角形。洗車ステーションの地下に隠された「宝の入れ物」だ

といい、その上の横穴をモグラが掘り進み、アリの行列が続く。日頃から、タブレット端末で絵を描きながら、思いついたストーリーを話してくれるという。

アート教室に通い始めたのは昨秋。友だちの話を聞いて「ボクも行きたい」と言い出した。母親の知永さん(31)は「絵を楽しんでくればと思っただけで、まさか賞をいただくなんて」と驚いていた。